

## 【おさいど祭】

最上町には、(おさいど祭り)という行事がございまして、毎年一月半ばになりますと、裸にふんどし姿の男たちが、その一年間にあった。慶事、結婚・新築・出産というおめでたいウチを周り、祝うという古くから続く大切な儀式ですが、うまくいかないこともあるよ

うで  
「おう。おさむ来たか」

「来たけど、なんだ話って」

「どうすんべ、今年の祭り？」

「へっ」

「祭り、おさいどだよ」

「ああ、祭りなあ。今年も張り切ってやるべ」

「張り切ってやるつつたつて、祭りさでる人間は俺たち、人しかいねえど」

「まったくみんな薄情な連中だ。みんな、町の方へ引っ越してしまって、毎年毎年引っ越して、とうとう、祭りをするのが俺たち、人しかいなくなっちゃった」

「ほんとうだったら、20人ぐらいで、ふんどし姿でタイマツ持つてうちをまわるから大勢がたいまつもつてウチをまわる。これが、勇壮でござそかなんだよ。これが、人で裸でタイマツもつてまわってみろ、だだの変態放火魔にしか見えねえべ」

「じゃあよお。この町には馬がいつ、いついるから、人の代わりに馬にタイマツくり付けていくつてえのはどうだ。」

「ばか、おめえとくりからとうげのかぎゅうの刑じゃねえんだから、馬がステーキになって終わりだっべ」

「おらあ、ステーキにはおろしポン酢がいい」

「そんな話してねえ」

「じゃあよお、かかしでも作っておらが10体つつ背負っていくつてえのはどうだ？」

「かかしというのは、布で作るんだっべ。燃えうつたら大変だぞ。まあ白い頭がいつべんに燃えてみる、焼き団子みてえでねえか」

「おらあ、蜜がすぎだあ」

「そんな話してねえ。おらに一つ考えあんだ」

「そうか、お前はアンが好きか」

「だんごから離れる、どうだんべえ、他から呼ぶつてのは」

「他から？」

「うんだ、オラが、30年めえにここさあ来たときは、観光客でにぎわってた、町に活気があった。それが、近頃はあ。観光客がめつきり減ってしまった、昔の勢いがなくなっちゃった。赤倉にはいい、いいところがある。それをPRしていかないといけないとおもつた。それが、この【おさいど】だと思ふ。だからよ、このおさいどに出てみたいという人を全国から呼びかけるんだよ。そしたら、全国の祭り好きがあるまっべ。」

「なるほど、回覧板まわすのか」

「ばか、回覧板だったたら、何年かかんだ。今は、SNSというのがあるんだよ」

「ああ。はいはい。おらあ、酒飲んで酔っぱらって、居酒屋、蛸よ。あそこへいったときに、弁所ふきたつたから、外でやってやるべって思つて、川でやってやるべと思つてし

よんべんしてたら、フラっときて、あそこガードレールねえから、川へおっこちまって、溺れそうになってたいへんでよお。たすけてえというて」

「おめえなんの話してんだ」

「えっ！ー！SOSだっぺ」

「SNSだ、まったくおめえなんも知らねえなあ。とにかく呼びかけの方は大丈夫だ、倅が詳しいからやらすから、赤倉の事も知ってもらってよかんべ、そりや、祭りをよそ者にやらすというのは、他から反対もあるかもしれないけど、そんな事にこだわってる場合じゃねえ。この祭りをきっかけに、赤倉を知ってもらおうべ」

くさあ。話がまとまりまして、他県から（おさいど祭り）参加者の募集をしますと、この祭りは珍し、面白そうだという人があつという間に、定員の20名集まります。祭り前日の夜になります。

「すげなおめえ。こんなにあっちゅまに集まるとは思わなかったなあ。正直こんなに、寒い時期に真っ裸でかけまわる、正直こんなにあつまるとは思ってもなかったよ。こんなに集まってびっくりだよ。。。。おいどうした？まさじ？うかない顔して？」

「たいへんだぞおおさむ。さあどうすっぺ」

「祝い事がねえ」

「えっ」

「肝心の祝い事がねえんだよ。この一年、結婚も出産も新築もなんにも祝い事がねえんだよ。」

「おさいどは、祝い事あるうちさ行く祭り。」

「そうだよお。こんなこと、今までいっぺんも無かったから気づかなかった。みんな、町さ引っ越してどんどん人も少なくなっって祝い事も少なくなっってきたけど、ゼロというのは初めてだな」

「たしかに、少なくなっってたけど、ゼロというのは、初めてだな」

「どうするべ、もう祭りは明日だぞ！今更、行く家がねえとは言えないぞ。行く家がなかったら、だだの変態放火魔集団だぞ」

「じゃあよお。この前、竹が町内のボーリング大会で優勝したべ。あれ祝うべ」

「ばかうんでねえ。そんなしょうもないことで祝えるか」

「じゃあよおこのまえ守るの倅。はじめて下の毛が生えたら嬉しいんだよ。その祝いに」

「おめえなめてんのか、全国から、珍しい祭りがある。めでたい事があつたら地域みんなで祝うってすばらしい祭りがあると来るんだぞ、そんなくだらない事で、呼べるか」

「じゃあどうするんだよ」

「こおとなつたらしかたねえ町内のみんなに協力してもらって、結婚。新築、出産をしたことにする」

「そんなことできるか？」

「やるしかねえべえ」

くさあ。二人が町内の仲がいい人に頼み込んで、祭り当日を迎えます

「うわあ。さすがに寒い。面白そうと思って参加したけど、これ観るのとやるのでは大違いだなあ。。。」

「いやあこれ、ほんとに冷えるな。このタイムマツでなんとかあつためるしかないなあ」「早くウチの中に入らないとこここえちやう」

ま「ええ、皆さん、ようこそ赤倉へ、よく集まってくれました。今から私たちが先導して、結婚新築出産があつたウチに連れていきます。皆さんほーほーと言いながらついて着て下さい。いきますよお。。。。ほおほお」

「ほおほ」

ま「まずは、あそこのウチです新婚のウチです。みんなで祝いましょう。ほうほう」  
「ほうほう」

家「いやいや、ご苦労さまです。どうぞ、おあがりになって」

「新婚おめでとうございます」

家「ありがとうございます。さあ。爺さんもあいさつあいさつ」

爺「わざわざ、ご苦労です。さあ、上がって一杯やってください」

参加「あれ、あのお父さんお母さん、新婚さんはどこにいるんですか？」

爺「わたしたちが新婚です」

参加「えっ。失礼ですが、お年は？」

は「84です。」

爺「87です」

ジジババ「新婚です」

治「数年前に二人とも熟年離婚して一人になったけど、やっぱり一人はさみしいちゆうて、仲のよかつた友達とくつついて、余生を過ごそうおいう設定だ」

「バカ、設定とかいうな。いやいや、いろんな、愛の形があるからな。この年でも、新婚は新婚だ」

参加「本当ですか」

将司「ほんと、じゃあ証拠に二人が熱いキスをするからね。ほんと。よめさんうめさんのむよ」

ばあ「あらまあこつぱずかい。一緒なつて50年だけど、もう何年もしてねえ」

参加「いま一緒になつて50年つていいいませんでしたか」

将司「いや、50日、50日の間違いでしょ。いやボケてるんだからあ」

ば「やっぱり若い男の体はええのおう爺さんも若いときはムキムキだった（さわってる）」  
参加「いや、若いころとか言ってますけど」

まさ「いやあ、次の家にいかないと、、、ふおふお」

「次のウチは新築の祝いだあ」ふおふお

参加「ふおふお」

次の家「いやあ、いらっしやい。ご苦労さん中へどうぞ」

参加「おじやまします。えっえっ。これ新築？」

家「新築です」

参加「なんか、畳ボロボロだし、障子敗れてるし、蜘蛛の巣はってますけど」

まさじ「これは、古民家をイメージした新築で、古いように見えるけど、新築であたらしくたったばかりなんだ、あえてボロボロにしてんだ」

参加「これ柱に線がひっばってあって、なんこもあるけど、何センチってこれ子供の身長  
の記録じゃないですか」

おさむ「これは違う違う、これは鼻毛の長さだ」

参加「鼻毛？」

おさむ「そうそうお。鼻毛を毎日とって、その長さを記録してんだ。赤倉にはそういう風習があるんだ」

参加「これ、鼻毛一メートルぐらいありますけど」

おさむ「といれたんだよお。」

参加「えっすごいですねえとれたんですか、なんか写真とかあるんですか」

まさじ「ふおお〜ふおお〜」

まさじ「さいごこのウチは出産ですう。産まれたばかりの赤ちゃんいるからお祝いしまし  
うふおおお」

次の家「いやあ〜いらっしやい。ご苦労さん中へどうぞ」

まさじ「この度は出産おめでとうございます。」

家「どうも、ありがとうございます。これが去年産まれたうちの子です。これ、あいさつ  
しなさい」

子「こんばんわああ」

参加「いやいや、これ、赤ん坊じゃないですよね。これ、<sup>6</sup>歳ぐらいじゃないんですか。」

家「田舎は育ちが早いです。六か月です」

参加「いや、早すぎでしょ。六か月じゃあ。まだ、寝返りし始めるぐらい」

子「でんぐり返しも出来るよ。見て」

参加「いや、ぜったい嘘！嘘ですよ。これ六か月じゃないですよね」

家「ほうほう」

〜数日後〜

おさむ「いやあ〜この前は大変だったなあ。なんとかバレすにすんだけど、来年はごめん  
だなあ」

まさじ「んなことより、おめえ〜みてみる！」

おさむ「なんだ？新聞？おおおさいどが新聞になってるべ」

まさじ「喜んでる場合じゃねえ〜これ読んでみる、参加者の声」

おさむ「山形県の赤倉という地域は本当におもしろい。<sup>87</sup>歳で結婚する新婚の老夫婦がい  
たり、「メートルの鼻毛をはやす人がいたり、生後六か月でしゃべる子供がいたり、スゴイ  
土地だ。おお〜うまいことバレてないな。」次の家「いやあ〜いらっしやい。ご苦労さん中

くどうぞ」

まさじ「バレてねえくことはいいけれども、この記事、見た人らが、赤倉にいきでえくいきでえくいうて、明日つから、赤倉の旅館は半年先まで全部満室だぞ」

おさむ「よかったでねえくかあゝ活性化できたな」

まさじ「ぼかやろうお。そんなに来られたらあれ、全部嘘だつてバレてしまっべ」

おさむ「じゃあどうぞするんだよ。」

まさじ「こおくなつたらしようがねえ。おらたちも明日つから町さ引っ越すべ」